

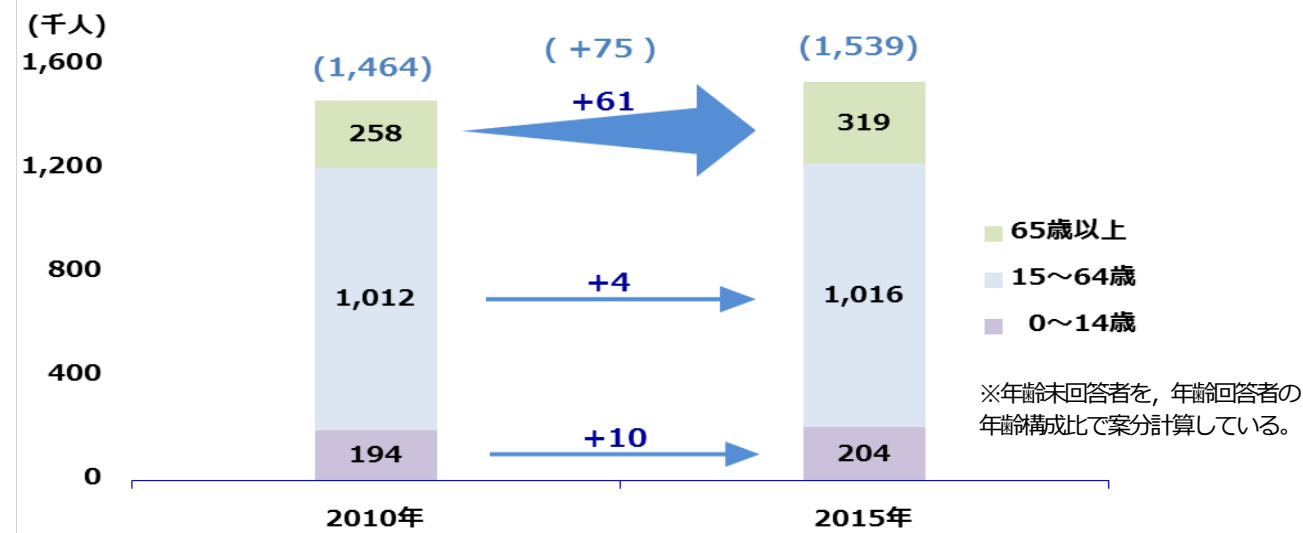
福岡市健康先進都市戦略（概要）

1. 策定の背景 —なぜ今、戦略を必要とするのか？—

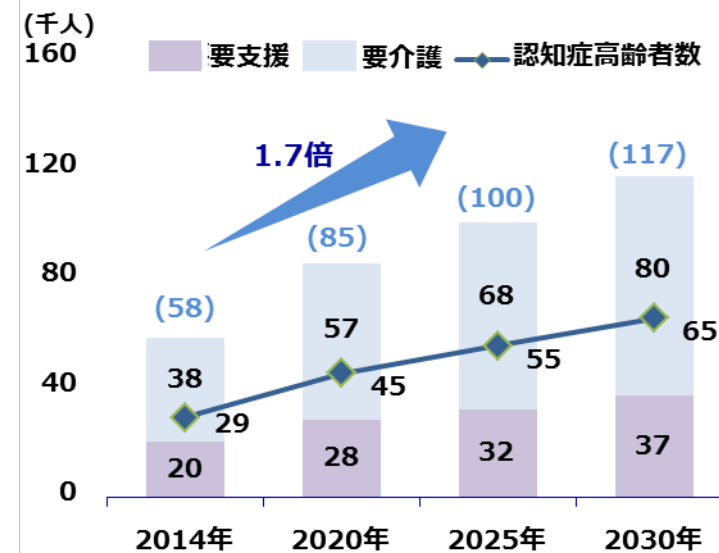
- 高齢者が急速に増加する一方、子どもや働く人の割合が減少する人口構造の変化に直面
- 日々の生活や、医療・介護の姿が大きく変容し、保健医療福祉ニーズが増大・多様化
- 社会保障制度の枠組みに基づく行政施策の再構築だけでは、ニーズへの対応に限界

保健福祉総合計画の理念をスピード感を持って具現化するため、行政施策の再構築だけでなく、行政施策の範疇を超えた領域で新たなサービスや仕組みの創出を促進する必要がある

【図表1】国勢調査（年齢階層別推移）

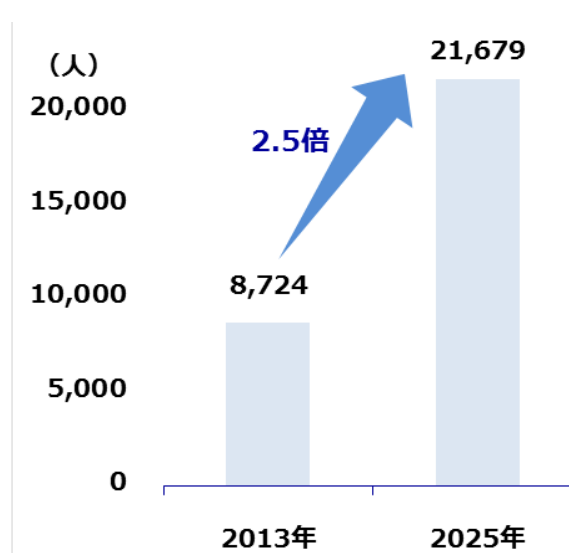


【図表2】要介護高齢者と認知症高齢者の将来推計



出典：「高齢者の保健と福祉に関する総合ビジョン（平成26年）」

【図表3】在宅医療を必要とする患者数

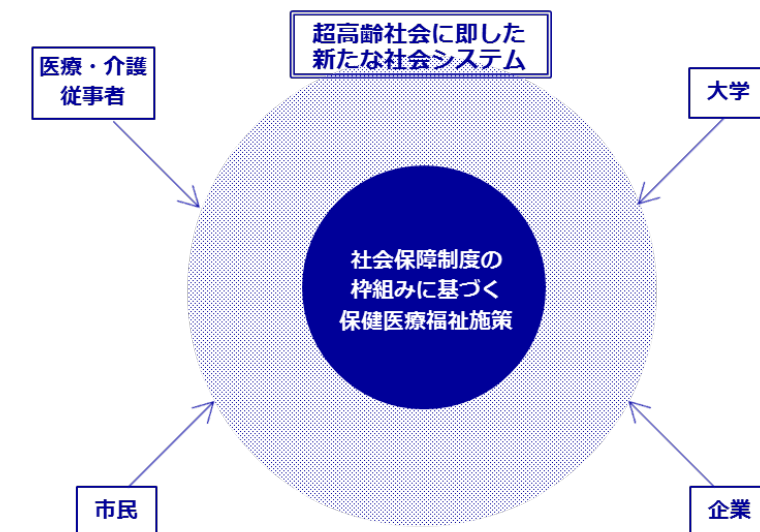


出典：平成28年度地域医療構想調整会議資料

2. 策定の観点 —何をめざすのか？—

- 社会保障体制を規定する社会経済情勢や市民ニーズの変化を踏まえる
- 市民や企業、大学など幅広いプレイヤーの参画を得て、その発想や手法を導入する
- これから起こる問題を「自分ごと化」して、解決に向けて動き出すきっかけをつくる

市民一人ひとりが心身ともに健康で“自分らしく”生きていける
超高齢社会に即した持続可能な社会システム



3. 戦略の策定体制とスケジュール

(1) 策定体制

学識経験者等で構成する「福岡市健康先進都市戦略策定会議」を設置し、戦略策定に関する協議を実施。

(2) 策定スケジュール

平成28年 6月 福岡市健康先進都市戦略策定会議 キックオフ
 平成28年 8月 福岡市健康先進都市戦略策定会議 戦略骨子案とりまとめ
 平成28年 9月 9月議会第2委員会へ戦略骨子案報告
 平成28年 11月 保健福祉審議会高齢者保健福祉専門分科会、少子・高齢化対策特別委員会へ戦略骨子案報告
 平成29年 1月 福岡市健康先進都市戦略策定会議 戦略案とりまとめ
 平成29年 3月 3月議会第2委員会へ戦略報告
 福岡市健康先進都市戦略策定
 平成29年 5月 保健福祉審議会高齢者保健福祉専門分科会へ戦略報告
 平成29年 7月 健康先進都市戦略に基づき「福岡100」の取組みを発表

※「福岡100」とは
人生100年時代の到来を見据えた、誰もが心身ともに健康で“自分らしく”生きていける持続可能な社会の実現に向けた、産学官民オール福岡で推進するプロジェクト。

4. 戦略の7つの柱

① すべての市民がケアに参加するまち

～科学的・体系的介護の実践と普及～

<主な取組方針>

- 専門職員や家族介護者、市民における認知症ケア技法共有の推進
- 家族介護と仕事の両立支援

【29年度】

認知症コミュニケーション・ケア技法「ユマニチュード」実証事業【拡充】

② 制度やサービスの垣根を超えるまち

～ケアする人／される人の情報が統合されたインフラ整備～

<主な取組方針>

- 健康・医療・介護分野の情報通信基盤整備
 - ・一体的な在宅支援サービスに向けた情報共有の仕組みづくり
 - ・公的保険外の生活支援サービスの一元的情報提供
- 本人や家族を含めた終活支援

【29年度】 ・地域包括ケア情報プラットフォーム構築事業【拡充】
・やすらかパック事業【新規】

③ デジタル時代の医療サービスが実現されるまち

～ICTを活用した「かかりつけ医」機能の強化～

<主な取組方針>

- オンライン問診・オンライン診療の導入
- 情報連携システムを活用した患者を見守る体制づくり

【29年度】

オンライン問診・診療導入のパイロット事業【新規】
(市予算なし)

④ 誰もが楽しみながら健康になれるまち

～健康を支える新たなサービスを生み出す仕組みづくり～

<主な取組方針>

- 産学官民による共働・共創の仕組み(ヘルス・ラボ)づくりと健康寿命延伸に寄与するサービスの創出促進
- 健康リスクの見える化による、市民の行動変容促進

【29年度】 福岡ヘルス・ラボ構築事業【新規】

⑤ 多世代がつながり合い活躍するまち

～コミュニティでの多世代交流・共働ネットワークづくり～

<主な取組方針>

- 地域住民が知識や経験等を持ち寄り、地域課題の解決を図る仕組みづくり
- 子育てを終えた人やシニアの新たなライフスタイルの実現に向けた支援

【29年度】 ・「R60倶楽部」の展開
・「アクティブシニア起業セミナー」の開催【新規】

⑥ ケア・テック・ベンチャーの拠点となるまち

～健康・医療・介護とテクノロジーの融合・イノベーション促進～

<主な取組方針>

- 人をケアする領域で、IoT*やAI*などを活用した新たなサービスモデルの創出促進
 - ・事業アイデアの磨き上げ支援
 - ・ビジネス化の促進支援

【29年度】 ・実証実験フルサポート事業(経観文)【拡充】
・ケア・テック ピッチ【新規】

*IoT：身の回りのあらゆるものがインターネットにつながる仕組み
*AI：人工知能

⑦ ケアの国際化を進めるまち

～外国人ケア人材養成と交流をサポートする枠組み整備～

<主な取組方針>

- 介護福祉士養成学校や、病院、学識経験者などによる、カリキュラムの基準設定やプログラムの認証スキーム整備
- 帰国後も学び続けられる仕組みづくりと外国人材のネットワーク化

5. 戦略の主な事業について

戦略の柱	事業名	事業概要
①すべての市民がケアに参加するまち	認知症コミュニケーション・ケア技法「ユマニチュード」実証事業	平成28年度より、認知症コミュニケーション・ケア技法「ユマニチュード」を、市内で希望する病院・介護施設等や希望する家族介護者に試行的に導入するとともに、その効果測定を実施。
②制度やサービスの垣根を超えるまち	地域包括ケア情報プラットフォーム構築事業	保健・福祉・医療に関する情報を一元的に集約・整理し、地域ニーズや課題の"見える化"を行うとともに、家族や在宅医療・介護関係者の負担軽減をはかるための情報通信基盤の導入に向けたテスト運用を実施。平成29年度は分析機能及び情報提供機能を強化するとともに、医療・介護関係者間の情報共有ツールの全市展開に向けた検討を行う。
②制度やサービスの垣根を超えるまち	やすらかパック事業	身寄りがない高齢者の抱える不安を解消するため、市社会福祉協議会が実施する事業を支援。事前に預託金を預かり葬儀や家財処分を行う制度に、平成29年度より新たに少額短期保険制度を活用した月払い制度を新設。
④誰もが楽しみながら健康になれるまち	福岡ヘルス・ラボ構築事業	市民の健康増進につながる新しいサービスの創出を図るため、平成29年度より産学官民の共働・共創の場「福岡ヘルス・ラボ」を構築。多くの市民などが実用化や効果の検証事業に参加することで、データの収集と蓄積を進めるとともに、新たなエビデンスの確立を目指す。
⑥ケア・テック・ベンチャーの拠点となるまち	ケア・テック ピッチ	健康・医療・介護など人を「ケア」する分野でチャレンジするスタートアップ企業を支援するため、医療・介護事業者や企業、大学、投資家との共創機会となる事業提案型イベントを開催。